

講義名	社会構造論(オンデマンドの回あり)			授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

本講義では、まず、社会構造論とは何かを概観し、社会構造をとらえるために社会変動、とくに戦後日本の社会変動、社会階層について社会学的な視点から理解する。社会階層と格差の問題について学んだのち、格差を構造化するもの、格差とそれを是正する制度や政策と、是正の可能性について理解する。

つぎに、社会構造論にとって重要な社会学者の理論を学修する。とくに、構造論、相互作用論を学び、現代社会をとらえる社会学理論を学修する。

さらに、現代社会において社会構造がゆらぎ、問い直される場面について理解しながら、21世紀社会において個人が生きやすい社会になるためにどのような社会変革が必要になるのかを検討し、考察する。

この授業では、授業の理解のためにレジュメだけでなく、補足資料、パワーポイント、ワークシートを用いて講義を行う。理解を深めるために、資料の分析、要約と意見の提示、映像資料の視聴、グループワークを行う。

【オンデマンド型について】

・この講義は、15回中4回がオンデマンド型授業です(オンデマンド型には対面とオンデマンドをどちらでもらえるハイブリットの回も含まれる)。毎回、前日までにキャンパスクロスを確認して、次の回が対面授業かオンデマンド型授業かを確認して授業を受講してください。  
 ・オンデマンド型授業とは、教材と学習方法をオンライン上の動画等で教員が提示し、学生が各自で学習するものです。動画等で課題の指示がありますので、情報を見落とさないように気をつけましょう。

### 到達目標

(1)社会構造論と社会階層論の基礎的な考え方、概要について理解し、説明することができる。

(2)社会変動と社会階層の変化の関連について理解し、説明することができる。社会的格差の内容を知り、その格差を構造化するものと、その問題点と対策について理解し、説明することができる。

(3)社会構造に関連する社会学理論について理解し、それらの理論を事例をあてはめながら説明することができる。

(4)上記の能力を用いて、現代社会において社会構造を問い直すような具体例を用いながら、社会構造の問題、社会的格差の問題を検討し、個人の生きやすさと社会構造のあり方について考察することができる。

### 提出課題

・対面授業の課題：講義時にワークシートや小テストに解答するか、もしくは毎回課題を受講した後、LMS(学習管理システム)、おもにキャンパス・クロス等でワークシートやコメント等を提出する。

・オンデマンド型授業の課題：キャンパスクロスで授業内容と動画を確認し、動画を視聴する。動画視聴後にLMS(学習管理システム)、キャンパス・クロスを経由して小テスト、LMSの課題、コメント等を提出する。

・対面授業形式ではマークシート形式で、これまでの課題をふまえたテストを複数回実施します。どちらの形式の授業でも、キャンパスクロスのテスト機能を用いて小テストを実施します。繰り返し小テストを受けることで、テストの形式に慣れ、授業内容について理解を深められるようにします。

・不定期に特別課題、小テストを課す。また学びを深め、評価を上げたい学生のために発展課題を課す。

・授業中半で、中間テストを課す(授業の進度や受講生の様子を見て中間レポートに切り替える場合もある)。中間試験のみ受験、もしくはレポートの未提出によって点数が下がり、単位が認定されない場合があるので注意すること(レポートの場合は1500字~2000字を予定)。

・最終テストの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは解けないので注意すること。また、最終テストを受験しない場合は授業を「放棄」したとみなし、単位を認定しない。履修要件などの試験の受験上の注意をよく読んで取り組むこと。

### 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

・対面授業形式の回の冒頭で、前週までに行った課題やLMS(学習管理システム)でのコメント・質問に対し、回答します。

・さらに、中間、期末にフィードバックに多くの時間を割いた授業を行う。課題の模範解答、正答率が低い問題の解答、質問・コメントを中心にフィードバックしていく。

### 評価の基準

・平常点50%(講義内の課題、不定期に実施する小テスト)  
 ・テスト・試験50%(テスト15%×2回分、最終テスト20%)

20分以上の遅刻は欠席扱い、居眠り、私語、指示のないスマートフォン等の電子機器の利用はいずれも欠席扱い。

欠席が5回以上になったら単位不認定とする。同様に毎回の課題の未提出が5回以上になったら場合も単位不認定となる。

次の行為は判別した時点で単位不認定。

1) 課題やレポート内容にインターネットからの盗作・剽窃があった場合、

2) 他学生の課題、クリッカー、レポートをコピーして提出した場合(この場合はコピーしたものを/させたものどちらも不認定)。

3) ともに部分的な盗作、剽窃、他学生の課題内容のコピー&ペーストでも単位不認定。

### 履修にあたっての注意・助言他

・教室内で他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為(私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など)をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することができる。

・各課題の記述式で盗作・剽窃したものは、それまでの課題点がどれだけよくても、発覚した時点で単位不認定とする。

対面授業、オンデマンド型授業共通

・LMS(学習管理システム)を利用するので、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。

・毎週講義前日にキャンパスクロスの講義連絡、授業教材フォルダ等を確認すること。

・教科書を使用するので、必ず準備すること。

・準備書を必ず読むこと。

オンデマンド型授業

1) 授業日前日までにキャンパスクロスにおいて教材、学習方法、動画等について確認しておくこと。

2) 動画視聴前までに予習を終わらせておくこと

3) 教科書や教材を参照しながら指定された動画や教材を視聴・確認すること。

4) 提示された課題、小テストを実施して提出し(メチーフ)、授業内容を整理・まとめるなどで復習時間を確保すること。

課題のメチーフ提出方法は動画内で示される。

下段にある「双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述」をよく読んでおくこと。

### 教科書

--	--	--	--	--

### 参考図書

社会学のエッセンス 新版補訂版・世の中のみくを見ぬく、	友枝敬雄ほか著	有斐閣	2200	9784641220980
-----------------------------	---------	-----	------	---------------

社会学で描く現代社会のスケッチ。	友枝敬雄ほか編	みらい	2420	9784860154851
------------------	---------	-----	------	---------------

歴史と理論からの社会学入門。	木村至聖	ナカニシヤ出版	2600	9784779516344
----------------	------	---------	------	---------------

### その他

・講義時に資料とレジュメを配布する。教育支援システムLMSを介して配布することもある。

・参考文献は適宜指示する。インターネット上のサイトなども利用する。

### 授業計画

【対面】第1回 オリエンテーション&社会構造を問いなおす(1)：社会階層と格差を学ぶ意義：子どもの貧困

予備：シラバスと事前に配布された授業資料をよく読み特に興味を持った授業回の内容に関する新聞記事、Webマガジン、ニュース動画、論文等をつみつけて確認しておくこと(2時間)。

復習：出題された課題を解き、講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめること(2時間)。

【オンデマンド】第2回 社会階層(1) 不平等と正義：格差の拡大、それとも縮小

予備：これまでの講義資料をみながら、テスト対策をする(2時間)。

復習：出題された試験問題の内容を思い出して振り返る。講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめる(2時間)。

【オンデマンド】第3回 社会階層(2) 社会階層と社会移動|予復習 1の内容と同じ

【対面】第4回 子供の貧困&社会階層論まとめとテスト

予備：これまでの講義資料をみながら、テスト対策をする(2時間)。

復習：出題された試験問題の内容を思い出して振り返る。講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめること(2時間)。

【対面】第5回 社会構造を問い直す(2)大規模災害と地域社会

予備：1の内容と同じ

【対面】第6回 共同体の役割と社会構造の変化

学生の理解度によって社会階層論のふりが入りに切り替えることができる

|予復習 1の内容と同じ

【対面】第7回 地域社会と社会構造のふりが入り&前半まとめとフィードバック|予復習 1の内容と同じ

【オンデマンド】第8回 共同体と社会構造の(もしくは前半の)まとめとテスト

予備：これまでの講義資料をみながら、テスト対策をする(2時間)。

復習：出題された試験問題の内容を思い出して振り返る。講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめること(2時間)。

【対面】第9回 社会的構造論(1)：社会をモノとして見る|予復習 1の内容と同じ

【対面】第10回 社会学は社会構造にどう向き合ってきたか：推しの社会学者を探そう

予復習 1の内容と同じ

【対面】第11回 哲学と構造論：ミシェル・フーコー|予復習 1の内容と同じ

【オンライン】第12回 社会学的構造論(2)：ギデンズ |予復習 1の内容と同じ

【オンライン】第13回 私たちが生きる近代とは：ベック、パウマン|予復習 1の内容と同じ

【対面】第14回 社会学理論と社会構造のまとめとフィードバック|予復習 1の内容と同じ

【対面】第15回 まとめとテスト、後半のフィードバック

予備：これまでの講義資料をみながら、テスト対策をする(2時間)。

復習：出題された試験問題の内容を思い出して振り返る。講義資料を見たらうえてノートを整理し、考えたことをまとめること(2時間)。

### 授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
----------------	--

ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
------------------	-----------

オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
-------------	---------------

キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	
--------------------------------------	--

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

(1)この科目は、社会構造論、社会変動、とくに産業、地域、家族の変化、社会階層、社会的格差について知ること、また、社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働きに関わる専門的な知識を知ること、社会の仕組みや働き、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解する。

(2)これらの理解を通して、現代社会において個人が生きやすい社会になるために、社会構造上の問題の解決のために必要なこととは何かを考える能力を培うことができる科目である。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・小テスト、提出された課題やクリッカーの内容について授業内で講評や解説を行う。

・対面授業やオンデマンド型授業どちらでもICTを活用した授業を実施します。毎回の授業時にはスマートフォン、もしくはPCやタブレット等を準備してください。

・オンデマンド型授業では動画を視聴します。OneDriveにログインして動画ファイルを再生する方式を主に採用しますが、慣れるまではYouTubeでの視聴方式を採用する可能性もあります。オンライン上の動画を視聴できる環境を整えましょう。

・LMS(学習管理システム)を利用するので、大学のメールアドレスをあらかじめ確認しておき、初回授業の指示に従って速やかに準備を整えること。

受講生の知見や考えを深めるために動画やインターネットを用いる。

### 実務経験の有無及び活用

なし

### 備考

やむを得ない欠席の場合の対応について、必ず教務部指定の欠席届と信ぴょう性書類も提出すること。教員から指示があれば指定された締め切りまでに課題を提出すること。